

会 議 録

会議の名称	市民参加推進会議（第45回）	
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係	
開催日時	平成28年7月29日（金）午後6時30分～午後8時35分	
開催場所	前原暫定集会施設 B会議室	
出席者	委員長 西尾 隆 委員 副委員長 渡邊 大輔 委員 委員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員 佐久間 博子 委員 原 久子 委員 三輪 茉莉香 委員 五島 宏 委員 中村 彰宏 委員 山下 光太郎 委員 天野 建司 委員 中谷 行男 委員	
欠席者	なし	
担当課	企画政策課企画調整担当課長 今井 哲也 企画政策課主任 岡崎 章尚	
事務局	企画政策課長 三浦 真 企画政策課係長 古賀 誠 企画政策課主事 高橋 奏恵 企画政策課主事 齋藤 彬子	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 一部不可 <input type="radio"/> 不可	
傍聴者数	0人	
【会議次第】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 附属機関等委員の市職員等の人数について (2) 市ワークショップに関する意見・提案について (3) 次回推進会議の開催日について 3 閉会		
【会議結果】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 附属機関等委員の市職員等の人数について 【訂正】 No.43「地域公共交通会議」のコメント欄で「市長又は市長が指名する職員 現在は環境政策課職員」とあるが、現在は都市整備部長となる。 【主な意見】 ・学校長は市職員に該当するか。また、No.7「安全・安心まちづくり協議会」では市職員が0人でコメント欄に学校長1人と記載があるが、No.47「社会教育委員の会議」とNo.51「公民館運営審議会」は学校長が委員に入		全文記録ページ P1~P2 P2~P3 P2 P2

<p>っていると思うがいかがか。 →事務局回答：学校長は市職員の扱いではないため、今回追記した欄には反映されていない。参考にコメント欄で学校長の人数を記載しているため、再度状況を確認し、追記をする。</p>	<p>P2</p>
<p>(2) 市ワークショップに関する意見・提案について</p>	<p>P3~P19</p>
<p>○6月18日に開催された公共施設等総合管理計画のワークショップに傍聴で参加した委員の方から意見・提案シートを提出してもらい、ワークショップマニュアルの参考とする。また、欠席した方にも当日の様子が分かる資料を送付し、読み取れる範囲で意見・提案シートを提出してもらった。</p>	
<p>【主な意見】</p>	
<p>・時間的なこともあり、誘導部分が目立ったように感じた。</p>	<p>P7</p>
<p>・委託業者がファシリテーターを担当していたため、全体の流れが非常に的確だったように感じた。</p>	<p>P7</p>
<p>・ワークショップの参加者等から話を聞いたところ、当日の資料は見やすく、分かりやすいと話していた。また、アンケートや意見書の内容が、誘導尋問に乗せられているように感じたとも話していた。</p>	<p>P7~P8</p>
<p>・ファシリテーターは、委託業者ではなく市の職員がなぜやらなかったのか。</p>	<p>P8</p>
<p>・広報では、ワークショップをやるということが載ってなかった。</p>	<p>P9</p>
<p>・参加者は比較的若い人が多いように感じたが、若者の参加を促すものとしては、物足りない人数に感じた。</p>	<p>P9</p>
<p>・このようなイベントによく参加する方が多かった印象があった。課題についてもよく理解していることから、意見も出て、ワークショップが成功したようにも思った。</p>	<p>P9</p>
<p>・居住地ごとで地区班を割り振っていたので、参加者は話をしやすいとは思いますが、居住地外で参加者が話し合いたい地域を選ぶのもまた盛り上がるのではないかと思った。</p>	<p>P9</p>
<p>・市議会議員が参加者にいたため、参加するのであれば、どうあるべきかが課題だと思った。市民の範囲や参加者をどこまでの範囲とするかが論点である。</p>	<p>P9</p>
<p>・ファシリテーターの感想から資料が物足りない印象だったという記載があった。</p>	<p>P9~10</p>
<p>・課題について全く知識がない人と詳しく知っている人が、話し合いで支障がでないようにすることが必要である。</p>	<p>P10</p>
<p>・テーマが難し過ぎることも問題だと思う。</p>	<p>P10</p>
<p>・ワークショップについて、かなり多くの内容が生まれ</p>	<p>P10</p>

<p>ていたため、時間的に可能な内容だったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ講座はかなりコンパクトにまとまっており、必要な情報の提起・KJ法のアイデア出し・ゲームは構造が非常にしっかりできていたと思う。しかし、時間はどれも足りないと思う。 	P10
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームについては、ゴールとしっかりした設定が大事。今回、ゴールが抽象的で情報量過多になり、分からなくなってしまうようにも感じた。 	P11
<ul style="list-style-type: none"> ・1個1個の手法とゴールをきちんと考えて組み合わせていくとより良くなる。こういった手法を全部使うのではなく、メリハリをつけ活かしていく方法を考えたらよいと思う。 	P11
<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者がワークショップに関わることでの良い理由は、見やすい資料がそろえられる点。 	P11
<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターは委託業者ではなく市の職員が正面に立つことでメッセージにもなる。資料準備から全て市の職員がやる必要はないが、今回のような形では準備を市が行っていたとしても、委託業者に丸投げしているように見えてしまう。 	P11
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップで議論したことがどこに伝わっていくのかを明確にしていく必要がある。 	P12
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを実施してから、短い期間で、その内容について見せられる仕組みがあれば、今後、会議や計画に興味や関心を持ってもらうツールができる。 	P12
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ講座の際、数値データ等の参考資料は近隣市のデータの方がよいと思った。 	P12
<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的なコンセプトのようなテーマでは入りづらいので、今回のような具体的なテーマで議論することが大事だと思った。 	P12
<ul style="list-style-type: none"> ・会場のサイズはちょうど良いと思った。 	P12~P13
<ul style="list-style-type: none"> ・市民共通の課題についての意見があってもよかったと思った。 	P13
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人に参加してもらうための周知が必要である。チラシの内容についても、ワークショップを実施するということが読み取れなかったとの意見もあった。 	P13
<ul style="list-style-type: none"> ・内容が多く時間が不足してしまい、誘導していたように感じてしまった方がでてしまったかと思う。 	P14
<ul style="list-style-type: none"> ・年配の方の声が強く、若い人が意見を言いづらい状況になってしまうため、同年代、同じ性別の方が集まると違う意見の出方がするのではと思う。 	P14
<ul style="list-style-type: none"> ・若者の参加を促すため、公募の他に、学校へ協力要請をしたり、高校生を対象に実施すると、おもしろい意見が出ると思う。 	P14
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップのグループは地域で分けているが、建物や目的別に分けると、出てくる意見が違ってくると思った。 	P15
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップをどのような経緯で行うことになった 	P15

か。	P15
→委員長より報告：意見交換会で今後の予定と併せてお話しはされていた。	P17
・ワークショップを行ったことが、どのように反映されていくのかというアナウンスはあったか。	P17~P18
・会が終了後、すぐに片付けるのではなく、初めて会った方で話しができたたり、感想を言い合えたりする居残れる時間はあったか。また、雰囲気はどうだったか。	P18
・ワークショップに来たきっかけが大事。	P18
・興味のあるテーマについてアンケートをとることで、市民が市政に出て行きやすくなるのではないかと思う。また、来た方にも今後やりたいテーマについてアンケートをとる作業も必要だと思った。	
【ワークショップマニュアル作成の際の意見・提案】	
・若者の参加を促すためには、市政のテーマについて、出前講座を行い、学校へ直接呼びかけるのがよい。市長からも宣伝してほしい。	P20
・委託業者の利用の仕方としては、資料を作成する等では必要である。	P20
・マニュアルには、段取りについて明記し、中身については書かない。やり方を書きすぎるとやりづらくなる。	P21
・企画チームを公募するのはどうか。	P21
・何をテーマにするのかを募集する。例えば、学生や若い人限定でモチベーションを上げるために優勝争いをさせるとか。その人たちに作ってもらったプログラムで、ワークショップを運営し、市はサポートを行うとか。	P21
・SNSの広報は、友達までにしか広がらないので、その先を意識した広報を行うためにも、魅力的なネタが必要。口コミがやはり強いと思う。	P21
・ワークショップで実施したことについて、どれくらい反映されるかによって、興味が変わると思う。	P21
・若者を集めるためには、駅前でビラを配るのはいかがか。	P21
・興味がある人以外を呼ぶために関心を持ってもらう特典が必要。例えば、こきんちゃんグッズ、ポイント制による景品。	P22
・専門性の高いテーマでの市民参加は意味がないため、若者を中心にする場合は、それに適したテーマがどのようなものかを戦略的に考える必要がある。	P22~P23
・広報の仕方として、若い人に重点的に配った今回のように、若者に少し多めに配分することは、積極的に参加してほしいという方針がとれば有効なものと思う。	P23
・学校にワークショップを持っていくやり方は、何でも受け入れられるとはいいがたい。例えば、教育カリキュラムに入れるのか、任意プログラムをやるのか、授業とするのかは地域・学校ごとが変わると思うし、ハードル	P23

<p>も変わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来、参加していること自体がインセンティブだと思う。多くの人と知り合えたり、就職活動のネタになったりしているため、うまく結び付けられたらと思う。 ・終わった後の雰囲気づくりは必要。その人間関係がよいと、次回の参加につながる。 ・若者を本当に呼び込みたいのであれば、大学で開講されている街づくり関係の授業単位と絡めるとインセンティブはとて高くなる可能性がある。 <p>→事務局回答：高齢の方の意見も若い方の意見も大事なため、単位とまではいかないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きたまちセンターは、若者の市民参加を積極的に推進している。そこでは、積極的な若者が自主講座を作るために集まっているため、その人脈や人の輪をつなげられれば、若者の市民参加につながるのではないか。 <p><その他></p> <p>次回推進会議までに、今回の意見を踏まえたワークショップマニュアル（案）を事務局で作成する。</p> <p>(4) 次回推進会議の開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月17日、18日、24日、25日の中で日程調整を行った。 →11月25日午後7時から開催することとなった。 <p>3 閉会</p>	<p>P24~25</p> <p>P25</p> <p>P26</p> <p>P26</p> <p>P27</p> <p>P27~P28</p>
<p>【提出資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度市民参加条例対象附属機関等設置状況（修正後） 2 平成28年度市民参加条例対象附属機関等設置状況（市職員定数入り） 3 意見・提案シートまとめ（6月18日開催ワークショップ） 4 公共施設等に関する市民意見交換会の参加者アンケート結果（速報値） 5 公共施設等に関する市民意見交換会のファシリテーター感想 	

第45回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成28年7月29日（金）午後6時30分～午後8時35分
場 所 前原暫定集会施設 B会議室
出席委員 12人
委員長 西尾 隆 委員
副委員長 渡邊 大輔 委員
委 員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員
佐久間 博子 委員 原 久子 委員
三輪 茉莉香 委員 五島 宏 委員
中村 彰宏 委員 山下 光太郎 委員
天野 建司 委員 中谷 行男 委員

担当課職員

企画政策課企画調整担当課長 今井 哲也
企画政策課主任 岡崎 章尚

事務局職員

企画政策課長 三浦 真
企画政策課係長 古賀 誠
企画政策課主事 高橋 奏恵
企画政策課主事 齋藤 彬子

傍聴者 0人

（午後6時30分開会）

◎西尾委員長 ただいまから第45回市民参加推進会議を始めます。今日は全員出席ですので、半数をもって成立したということで始めたいと思います。

今回も、切りのいいところで5分程度休憩をとりたいと思います。

それでは、事前に資料を送付させていただいておりますので、配付資料について事務局から説明をお願いします。

◎事務局 それでは資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、事前に送付したものの5点となります。まず、資料1「平成28年度市民参加条例対象附属機関等設置状況」、これは前回お配りしたものの修正後のものになります。資料2「平成28年度市民参加条例対象附属機関等設置状況」については市職員定数入りのものになります。そして、資料3「意見・提案シートまとめ（6月18日開催ワークショップ）」については、皆様からご提出いただきまし

た6月18日に開催されたワークショップの意見・提案シートを取りまとめたものになります。また、資料4「公共施設等に関する市民意見交換会の参加者アンケート結果（速報値）」についてと、資料5「公共施設等に関する市民意見交換会のファシリテーター感想」については担当課より配布された資料になります。事前に送付させていただきましたものは以上です。全てホチキス止めされており、机上にお配りしています。当日配付資料はございません。配付漏れ等ございませんでしょうか。

◎西尾委員長 ありがとうございます。では、議題2（1）「附属機関等委員の市職員等の人数について」に入りたいと思います。これについて、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 それでは、説明いたします。

まず、資料1「平成28年度市民参加条例対象附属機関等設置状況（修正後）」、こちらをご覧ください。前回の推進会議にて、平成28年4月1日現在の同様の資料をお配りしていません資料から今回変更がございまして、資料1の4ページ目に、「平成28年度新設予定、新設済及び既存の審議会で4月1日時点で委員不在のもの」とあります。こちらに、「小金井市下水道使用料審議会」を追加させていただきました。

次に、資料2のご説明をさせていただきます。前回推進会議にてご指摘のありました内容になります。「小金井市下水道使用料審議会」を追加し、市民団体代表枠と市職員枠の人数を表示いたしました。市職員枠については、初めてお示しをさせていただいています。構成の詳細については、矢印でついていきますコメント欄をご覧ください。

なお、コメント欄の部分で1件修正がございます。2ページ目のナンバー43「地域公共交通会議」ですが、コメント欄の部分で、「市長又は市長が指名する職員」が現在は環境政策課職員となっていますが、こちらの指名する職員は現在、都市整備部長になりますので、訂正をお願いいたします。

◎西尾委員長 これについて何か疑問等ございますか。どの会議も事務局の職員は例外なく出ているようです。この資料から、事務局以外に、委員として一部部長職が参加されていることがわかりました。特によろしいでしょうか。

◎中村委員 資料2の3ページ目ですけれども、私が去年までやっていた社会教育委員という会議、47番、それから、51番の公民館運営審議会、ここのコメントがおそらくつけ加えられると思います。と申しますのも、これはそれぞれ社会教育委員の会議も学校長が入っていますし、公民館運営審議会も学校長が、それぞれ1人ずつ入っていると思いますので、ご確認いただければと思います。

◎西尾委員長 学校長は職員ですか。

◎中村委員 1ページ目の7番、安全・安心まちづくり協議会に学校長と記載があります。

◎事務局 安心・安全まちづくり協議会では、うち市職員0人としている中で、参考までに学校長が1人いるとコメント欄で表示させていただきました。社会教育委員の会議と公民館運営審議会でも学校長は市職員には入らない扱いになるかと思いますが、参考ということでコメン

ト欄を追加させていただきますので、再度確認させていただきます。

◎西尾委員長 ゼロという数字はそのままですね。

◎事務局 そうです。

◎西尾委員長 先生というのは、都の職員という扱いになるわけです。防災会議もゼロになっています。職員の概念をどう捉えるかで数字が変わってくると思います。ご指摘、ありがとうございました。

◎大久保委員 表の見方として、2の市民参加推進会議だと、委員12名のうち、公募8名、市民団体2名、市職員2名で12となっているんですけども、それ以外のところが、足すと委員の数と合わないというのは、先ほどお話があった、どこにも属さない方が多くいらっしゃるからということでしょうか。

◎事務局 そうです。属さない方と、公募ではない団体の方もいらっしゃいます。今回追加した欄は、うち市民団体なので、市民団体以外のその他団体で位置づけられている方がいます。

◎西尾委員長 防災会議だと29人いますけども、この大半はどういう方になりますかね。ほとんどの方は地域代表とか？

◎事務局 防災会議は、ガス関係や交通関係、警察関係等の公職関係で防災にかかわる方が参加されています。

◎西尾委員長 この表で全ての団体の性格がわかるわけではないので、今回は公募という観点と、あとは市の職員についての、情報ということになります。それぞれの会議の性格、目的に沿って職員を入れるところもあるし、そうでないところもあるということでしょうか。

その他、何か疑問等ありますでしょうか。今日はこれが中心の議題ではないので、参考までという感じですが。特にないようであれば、次の(2)市ワークショップについてへ進みたいと思います。では、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 それでは、(2)市ワークショップに関する意見・提案について事務局から説明をさせていただきます、説明後、引き続き今回も担当課が来ておりますので、担当課より当日の流れと報告をさせていただきます。

第43回推進会議での決定事項としまして、若者の市民参加に向けたワークショップの具体的な手順や方法について、現在議論していただいております。それに伴いまして、市で行うワークショップの一例として、6月18日に公共施設等総合管理計画のワークショップを紹介させていただきました。担当課に協力いただき、推進会議の委員の方は傍聴という形で参加をしていただきました。参加いただいた委員の方からは意見・提案シートをご提出いただき、ワークショップについてのご意見をいただいているところです。

また、当日欠席の委員の皆様にも、当日の様子ができるものとして、ワークショップの写真、出席者の状況、当日の資料等を送付させていただき、読み取れる範囲で意見・提案シートをご提出いただいております。

それでは、資料3をご覧ください。今回、名前の記載はない状態で、AからGというふう

表の一番左側に記載させていただきました7名の方からの意見・提案シートの提出となっております。次に、ワークショップ参加の有無とあります。6月18日のワークショップに参加された委員の方は○、欠席の方は×となっております。意見・提案シートについては、さらに7つの項目で分けさせていただきました。1つ目は、「当日の説明内容について」どうだったか。2つ目は「ワークショップの参加者について」、年齢、男女の割合、意見の出し方等がどうだったか。3つ目は「時間配分について」どうだったか。4つ目は「ワークショップの進め方について」、こちらは第1弾で共有、第2弾で検討という形でしたが、こちらの内容についてはどうだったか。5つ目は「ファシリテーションについて」どうだったか。こちらについては、当日参加していただいた方でないと状態がなかなか分からなかったかと思えます。そして、6つ目「講評について」。7つ目「その他（自由記述）」となっております。

次に、資料4、資料5についてですが、こちらは担当の事務局より提出された資料となります。資料4は、ワークショップに参加された方のアンケートの報告書、資料5はファシリテーターである委託業者の感想をまとめたものになります。こちらについては、担当課より報告をさせていただきます。

◎担当課 では、先日開催されました市民意見交換会、土曜日ということで、お休みの中、一部の委員におかれましては積極的に傍聴等にお越しいただきまして、ありがとうございました。

それでは、6月18日に開催いたしました公共施設等に関する市民意見交換会、こちらの当日の概要、流れ、それから資料4、資料5につきまして、口頭ではございますが、ご説明を申し上げます。

市民の皆さんと課題や将来像を共有し、市民の皆さんの生のご意見を伺うとともに、将来の公共施設等のあり方を検討していただき、計画策定の参考とするため、市民意見交換会を開催したものでございます。参加者につきましては、定員30名に対しまして24名の方にご出席をいただいたところでございます。

当日の流れでございますが、まず、会を第1部と第2部、2部構成とさせていただき、第1部におきましては、小金井市の公共施設の現状と将来の見通し、及びこれまでの市の取組や先進自治体の取組事例等につきまして、「ミニ講座」と題しまして、講座形式での研修会を実施したところでございます。第2部におきましては、第1部、こちらの内容を踏まえまして、ワークショップ形式にて、参加者の居住地に基づき5つの班に分かれていただき、市内4つの地域ごとに検討していただいたところでございます。

検討内容は、班ごとに、まず、公共施設等の課題を整理していただき、目指すべき公共施設の将来像、こちらを設定していただきました。その上で、課題や目指すべき公共施設の将来像を踏まえ、各地域の検討対象とする公共施設について、将来の建て替えや大規模改修といった更新の際に考えられる対応の例といたしまして、集約化や用途変更等の方策を取り上げ、各種方策の導入方法や効果についてご検討いただいたところです。検討の結果は、各方策のメリットやデメリット、将来更新費用の縮減効果も可能な限り精査していただき、班ごとに発表して

いただいたところです。報告書につきましては、現在、受託者において鋭意作成中でございますので、完成次第、市のホームページに掲載してまいりたいと考えてございます。

続きまして、資料4、こちら、「公共施設等に関する市民意見交換会の参加者アンケート結果（速報値）」ということでご説明を申し上げます。

この資料は、当該意見交換会の参加者24名に配付させていただき、回答のございました23名の回答を取りまとめたものでございます。アンケートは意見交換会開催前と開催後に行っております。2ページ下段に、事前アンケートと事後アンケートの対比を示しております。

1ページ目は、1「回答者の属性」でございます。参加者のお住まいの地域についてですが、本町、貫井北町の参加者が多かったところではございますが、市域を中央線と小金井街道を主として4つの地域に分けた結果、南東部地域の参加者が多く、南東部地域を2つの班に分けさせていただきました。

年齢につきましては、40代の方が7名と最も多いところですが、構成に大きなばらつきはなかったものと考えてございます。

なお、16歳以上を対象としており、実施前には10代の方1名、参加の意向が示されていたところではございますが、当日ご欠席となったことから、10代の方の参加はございませんでした。

続きまして、性別につきましては、男性、女性ともにほとんど同数となっております。

2ページ目からは、事前のアンケートについてでございます。Iの部分では、参加される動機について伺ってございます。問1では、会を知ることになったきっかけについて伺っており、市報やロコミよりも、市民アンケートに同封したチラシが上回っているような状況です。

問2では、参加する動機や期待する点について伺ってございます。複数選択可としており、事前アンケートと事後アンケートとの対比につきましては、先ほども簡単に触れましたが、詳細につきましては、下段の「参考」と記しました枠の中をご覧くださいませよう、お願いいたします。

3ページ目からは、IIとしまして、市の現状認識についての設問を設けてございます。問3では、現状の市の財政状況から勘案すると全ての公共施設を維持していくことが難しいことについて、問4では今後の人口見通しについて、問5では、公共施設の約60%が建築後30年以上経過していることについて、これらを知っているか否か、こちらを確認させていただいたものです。結果としては、全ての項目で「知っている」、または「なんとなく知っている」、こちらを足した合計が、「知らない」と回答した方を大きく上回ってございます。

続きまして、問6、問7では、「施設白書」及び「施設カルテ」について、見たこと、読んだことがあるかということを確認させていただいており、どちらも残念ながら、見たことがない、読んだことがないという回答が大きく上回っているところです。

4ページ目からは、3番目としまして、事後アンケートについてです。問1は、意見交換会に参加して、どのような効果が得られたかを問う設問としてございます。2ページの事前アン

ケートとの対比に加えまして、「その他」と回答した方の意見、5 ページ目には、⑤として「他団体における事例紹介」に対する回答、6 番目の項目として、市の目指すべき方向性に対する回答について記載してございます。

5 ページ目のⅡでは、市からの情報提供の適否について設問を設けさせていただいております。問2、問3については、ミニ講座や意見交換会の市からの情報提供が適切であったかどうかを問う設問としてございます。こちらの問いかけ方が悪かったのかもしれませんが、市としては、検討に当たっての資料提供等の情報提供の内容が適切であったかどうかを確認いたしましたのですが、問3の回答を見ますと、広報が適切であったかについて回答している方が複数名見られるという結果になってございます。

最後に、問4以降は、今後の意見交換会や市民説明会を実施する際の参考とするため、参加しやすい時間帯や時間の長短等について設問を設けさせていただいたものです。問4では、全ての方に、今後もテーマによっては、このような意見交換会に参加いたしたいという回答をいただいておりますことを申し添えさせていただきます。

8 ページ目から10 ページ目までにおきましては、事前、事後ともに自由記述していただいた意見を掲載しておりますので、参考までにご覧いただければと思います。

11 ページからは、使用したアンケート用紙を参考として添付しているものでございます。資料4の説明は以上となります。

続きまして、資料5の「公共施設等に関する市民意見交換会のファシリテーター感想」、こちらについてになります。こちらは当日、各班にファシリテーターとしてご着席いただいた受託者の方々に、進行に関する感想や苦労した点を確認させていただき、上がってきたものを取りまとめた資料となっております。

1 番目の前提につきましては、先ほども述べさせていただきましたとおり、班分けの前提を記載しております。2 番目では、「メインファシリテーターの進行と各班での進行との兼ね合いについて」。2 ページ目の3 番目の項目におきましては、「各班メンバーの構成と班の進行について」。3 ページ目の4 番目の項目では、「市職員の存在について」。4 ページ目、5 番の項目になりますが、「班での検討・議論、他班との交流について」。5 ページ目の6 番目の項目では、その他の意見、感想について伺ってございます。

詳細については、各位、皆様でご覧いただきたいと思いますと思いますが、なお、表中、ハイフン、マイナスの線が引かれているものにつきましては、特筆すべき意見、感想がなかったものというふうに、ファシリテーターから回答を得たものということですので、ご了承いただければと思います。

資料説明は以上になります。

◎事務局 それでは、事務局から追加でご説明を申し上げたいと思います。本日事前に配付をさせていただきました資料3、4、5という形でご説明を申し上げたところでございますが、この市民参加推進会議では、今回は公共施設等総合管理計画の内容についてのワークショップ

でございましたけれども、この会議の中でご議論いただきたいテーマといたしましては、この計画そのものということではなく、あくまで若者の市民参加を推進する一形態としてワークショップを実施したので、そのご報告をしたという位置づけでございます。したがって、若者の市民参加を推進するためという切り口からご議論を展開していただければと思っております。よろしくお願いたします。

◎西尾委員長 ありがとうございます。まず、資料についてご質問等ありますでしょうか。感想などは、またこれからシェアしていきたいと思っております。

当日は私たち5名が傍聴で参加しました。ワークショップは、ポストイットを貼ったり書いたり、それをいろいろ議論したりするというので、参加した方のイメージは非常にクリアになったかと思いますが、それでは、まずは参加された方の感想を知らせていただければと思います。一山委員、いかがでしょうか。

◎一山委員 意見・提案シートのCは私が書いたやつでして、これが全ての、そのときに感じたことでございます。とてもうまくいっていたんですけど、ちょっと時間的なことなどが、誘導のところちょっと、目立ったところがあったのと、あと、やはりファシリテーターの方が前でいろいろご説明なさるよりは、ワークショップなので市民の皆さん方で議論されていて良かったと思います。

あとは、キャッチフレーズが、ちょっとびっくりしたというか。あまりにも、5分の4が同じで、統計学をやっている側からすると、不思議な結果がありますね。それと、ごみは関係なかったのかどうかわかりませんが、今回のとは関係がないのでしょうか。それが一つ。

◎西尾委員長 ごみは関係ないわけではないと思っております。

なるほど。市民の声の中に、庁舎のことが出ていました。あれも誰もが利用できる小金井の公共施設と言えます。市民のアンケートの9ページの下の方で、事後の12番「公共施設に『市庁舎』が含まれるが、当市にとっては最大の懸案事項である」という、事実が書いてありますが、これについても議論して良かったと思います。でも、スムーズに感じていました。

◎一山委員 はい。

◎西尾委員長 アジア航測というコンサルが、ファシリテーターを担当して、いろいろなプレゼンから全体の流れも仕切るといいう言い方はよくないですけども、その専門業者からコーディネートされているだけあって、非常に的確な流れを作っていただきました。少し誘導ということも言われましたけれども、最後まで見ると、そのような印象を持った人がほかにもあったかなというのがあります。

その他、原委員いかがですか。

◎原委員 ワークショップの後、参加した人とか、ワークショップに出なかったグループで、このことについていろいろ話したんですね。でも、ここのアンケートに書いているような話でした。資料がすごく見やすく、わかりやすく、当日の資料ね。当日の資料、こんなになっ

ていて、すごくわかりやすく、結論から言うと、こんなことを言っちゃいけないのかな。市長がすごく、総合庁舎みたいないろんな施設を建てると言って政策を約束していたわけですけど、お金がなくて、そういうことを現実としてできるわけがないということで、どういう話になるか聞きに行こうと思って行ったら、いろんな話を聞いて楽しかったと言っていました。でも、この間のアンケートの、皆さんに配付したアンケートもそうだし、それから、こういう意見書を作ったのもそうだし、何か、誘導尋問に乗せられているような感じだわとか言っていました。

ここのアンケートにも書いていましたけれども、いろんな話をした結果、何でああいうイベント屋さんを使うのかというのは聞いてきてくださいと言われました。市の職員は、そういうのを何でやらないかとか言っていました。聞いてこいって言われたので。でも、参加して楽しかった。お金のこととか全然考えないで好きなことを言えし、それもそうかなと思うようになったしなんていうことで、彼女たちがいたグループでは、ここに書いてないんですけど、担当のところには。やっぱりお金がないということで、大きいのは大きいので合同庁舎、これにも書いていましたけども、合同庁舎を建てるのが必要だけど、10年先とか何か、計画を立てないと、今日、明日できるわけじゃないから、それまでに、やっぱり古いのを修理して使うとか、2階建てのアパートみたいな、こういう規模の保育所とか老人の憩いの場とか、そういうのでとりあえず賄いながら、こういう合同庁舎みたいのを造るような計画を立てたらどうかという話をうちのグループでは言っていました。そういう話をしていました。

◎西尾委員長 これはアンケートにありましたが、知人、友人で来た人が多いので、既に知り合いの方が来られていることもあり、話しやすかったのかなと思います。

◎原委員 それと、やっぱり公民館でも何でもそうですけど、歩いて行ける距離というのはすごく大切なので、電車に乗ってバスに乗って行くのではなくて。それでも、バスに乗って行く場合でも、バス停の近くとかいうのを考えてほしいなということとか、それで、今、少子化で学校なんかは地域ごとにあるから、学童でも何でもそうですけど、学校に行って、遠い学童に行くんじゃないかと、その学校内のあいたところら辺でやれば、学童も高齢者の場も、学校なんかのあいたところを利用したほうがお金もかからないし、みんなが近くて行けるし、そして、近所のおじいちゃんとか子供とかも顔合わせする場ですごくいいんじゃないかみたいな話をしたんだよと言っていました。そういうのは出てないけど。

◎西尾委員長 グループは市を4つに分けた地区ごとになっていますが、地域のいろいろな施設の情報を共有できて良かったと思います。こういうワークショップは、地域ごとで行っているところも複数あると思います。

◎原委員 この間、高齢者の講演会みたいのがあって、そこで市長が早速、今言った話をしたんですよ。方向転換した話をしていたんですけど、ここには載ってないんですけど。

◎西尾委員長 市長はワークショップの間もいましたし、最後、挨拶もされていましたね。

◎原委員 それとやっぱり、ワークショップなんていうのは、載ってないというか、何という

か、こういう話も、要するにセットされているという感じで進んでいって、まとめもちょうとセットされているようなまとめを言っていた。何か、ちょっと不自然だなんて、そういう話もしていました。

◎西尾委員長 そういう感じ方をした人はほかにもいるだろうと思います。

◎原委員 そういうふうなことを書いている人がいましたね、やっぱり。

◎西尾委員長 とにかく、そういういろいろな感想を順不同にシェアしていければと思います。中谷委員、いらっしゃっていましたね。

◎中谷委員 私は、匿名でいくとGでございます。感想は読んでいただければと思います。そして、参加者の方で、年齢が20代、30代が2人、4人ということで、イメージとして見ると、意外と若い人が多かったなと思いました。ただ、それでも、今回は、若い人をという観点からいくと、物足りないのかなというのが1個、感想です。

もう1個、来てくださっている人は、よく知っている人が来ていたというのが感想ですね。詳しい人がお見えになっているから、この会議の趣旨でいくと、何もわかっていらっしゃらないけど、関心を持って参加するような方は少ないように思った。参加した方は、当然課題についてよく知っているので意見は出ていて、ワークショップとしては成功していると印象を持ちました。

ただ、ファシリテーターの方のある一定の部分でいくと、ちょっと不満が出ているのもあったので、そこら辺も事前の打合せみたいところは課題があるのかなと思っています。

それから、ここはいろいろご意見が分かれると思いますが、地域を分けているんですよね。資料5でいくと、「きた」「にし」「ひがし」「みなみ」ということで分けていて、居住地ごとに、住んでいるお住まいの地区で班の振り分けをしていると聞いたので、その地域について詳しいから、その地域のお話はいっぱいできるんですけども、私の感想で書いていますが、その地域以外のところにお話をしたい方にしてみると、もう振り分けられてしまっていますから、例えば、東町とかにいらっしゃる人が北とか南の話をしたいと思っても、メーンはこっちになっちゃっているんで、そこは班分けをしたほうがワークショップは盛り上がると思いました。事務局では総括して、今回、迎えていると聞いているので、その成功点とワークショップのあり方には課題があるのかなと思った次第です。

ワークショップ自体はうまくいったのかなと思いました。あと、市議会議員が結構いらっしゃったので、参加するのであれば、どうあるべきなのかは課題かなと思いました。報告や意見には記載がないので、情報として申し上げました。

◎西尾委員長 ありがとうございます。論点として、市民の範囲や参加者をどこまでにするかが論点だろうと思います。

今言われた中で、既にいろいろ市の施設についてよくご存じの方が多かったというのに関連してですが、ファシリテーターの感想の中に、資料が物足りない印象をお持ちだったというのが2ページ目のC班の中にあります。「目新しい情報を欲していたのかもしれない」というの

で、やはりこのように参加して、いろいろと勉強になり、知らなかった新しい情報が得られることは大事なことだと思います。全く地域のことを知らない人もいますし、詳しく知っている人もいるので、話し合いの中で支障がないようにすることが大きな課題かなと思います。テーマが難し過ぎるということも問題かもしれません。

では、渡邊委員が一番たくさん出してくださっているので、ポイントだけでもお願いします。

◎渡邊副委員長 遅れてしまって申し訳ありません。幾つかあるのですが、おそらく議論が出ているところも含めてだと思います。まず大前提として、小金井市はこれまで、こういったワークショップをやってこなかったということがありますので、おそらく初めての試みであると同時に、あまり失敗できないので、かなり全力投球されたんだなという感覚を持っています。

その意味で逆に、おそらくこれまでのワークショップで、こういったことがいいよね、大事だねという要素はかなり多く盛り込まれている分、逆に内容が盛りだくさんになってしまっていたのかなという点を感じています。その意味では、すごい努力をされたという点と、しかし、頑張り過ぎてしまって、この時間で可能な内容だったのかという点が指摘できます。

逆に言うと、あのワークショップの内容で市民の方がついてきたということは、市民の方でもよほど関心が高い方が多かったのでしょう。関心もないけど何となく参加したという方はそこまで多くなかった、と言えらると思います。

まず、ミニ講座ですが、結構あの手の講座では時間をかけてしまうものをかなりコンパクトにまとめていただき、さらに、必要な情報はそれなりに提起していたり、あるいは、KJ法的なアイデア出しをやり、その後ゲームをやるという形で、構造は非常にしっかりとできていたと思います。ただし、初めにお話ししたように、時間がどれも足りない。そうすると、実は1個1個の内容って、なぜその方法が重要になっていると言われたのかというのは、多分それなりに理由があるんですね。例えば、3と4のところでは書かせていただいたKJ法についてですが、KJ法は、もともとはどうデータを整理するかという話で集まるのですが、実はKJ法は、ただまとめるだけではなく、そのまとまった意見が本当にこれでいいのかを考え、少し違おうと、思わず意見を言いたくなると、意見を誘発させるための装置なんですね。今回に関してはかなり時間がなく、しかも、初めてやると慣れないもので、どうすればいいかわからないと。そのため、はじめ、恐る恐るやって、うまくいき始めたぐらいのころに、「はい、もうすぐ時間です」となっていくというようなことが往々にして起きやすい仕組みです。そうすると、次に意見をもらおうというよりは、とにかくいろんな人のアイデアがたくさん並んだというところで終わってしまう。KJ法の本来の目標である、例えば、意見を誘発するというところまでなかなかいかなかったという現状があります。

もしかしたら、それでは、続く予定のゲームを全部忘れて、KJ法の続きをやっちゃえばという話にもなるんですけど、なかなかそうはいかなくて、じゃ、次はゲームです、と。今度はゲームですが、ゲームもすごくおもしろくて、よく練られています。ただ、カルテというのがあって、あまりにも情報量が多く、それをすごくわかりやすく、カラフルに、こんな

感じでまとめていただいているんですけど、今度は、これが出てきたときに、後でいろいろ思ったのは、ゲームの場合、やっぱりゴールが大事だと思うんですね。ここまでしっかりとしたデータが出されてしまうと、本来は、目標値はここですというのがあったほうが逆にやりやすい。それは、数合わせと言われるかもしれないんですけど、ゲームであれば、やはりどこか、きちんとした目標設定が必要なんですけど、今回の場合は、そのゴールは抽象的で、皆さんがあり得るべきものを考えた。そうすると、でも、じゃ、この具体的な数字をどう使えばいいか、さっぱりわからなくなるんですね。なので、逆に今度は情報量過多になって迷子になっていくところが多かったのかな。

その意味では、今回のワークショップは失敗というよりは、こういった形でやるということがすごく見えてくるし、じゃ、このツールを今後どういうふうに使って、ほかのものに持っていくのかということ、多分、1個1個の手法とゴールというものをちゃんと考えて組み合わせていくと、もっとよくなるのかな。

小金井市は、今回の例が、かなりうまくいっている点はあるので、それでは、こういった手法を全部使うよりは、この議論をするときには、どの手法を使いましょうということ、もう少しメリハリをつけてはいかがでしょうか。一見、これでは絶対時間が余っちゃうよと思われるかもしれませんが、大抵、この手の議論は絶対時間は余らないので、それをむしろ活かしていくという方法で今後考えていったらいいのかなという点があります。

それから、もう一つ、ファシリテーターの議論、これは、かなりいろいろな方も言われています。私自身は、業者が入って一番よかった理由は、多分、この材料がものすごく見やすくなっていることだと思うんです。これ、一見、くだらなそうに見えるのですが、このようにきれいに材料がそろっているのは見やすいし議論しやすい。これを全部、一から市の職員で作るとするのは、なかなか大変だと思います。ただ、じゃ、ファシリテーターが、あそこに立っている人まで全部が業者でなきゃいけないかと言われてたら、そのようなことはなくて、こういったきれいな資料を全部作っていく部分に関しては外の力をかりていく必要があるかもしれませんが、やはり一緒に計画を立てる人間、あるいは議論していく人間は、市の職員が正面に立ちますよと、これはメッセージにもなると思います。おそらく今回への違和感は、全部丸投げしたんですか、と見えてしまうのですよね。もしかしたら、市の方、頑張ってるかもしれないけど、それでも丸投げに見えてしまう。これはせっかく準備されているのに、もったいないと思います。

やはり市民参加で、市民の一部にも市役所の方が入っているので、そこはぜひ市役所も、あるいは市の職員も一緒にやるんです。職員なので、完全なプロではないので失敗もしますが、それでも、そこは一緒に作って議論していきましょうという姿勢を今後出していったほうがいいのかなと思います。

その意味で、材料作りまで全部市で賄ってくださいということは多分あまり必要なくて、そこは一緒に、場合によっては、業者にもご協力いただきつつ、だけど、最前線に立つ部分は

職員さんが一緒にやる。あるいは、各ワークショップなんかをやるとか、おそらく大体委員会とかがあるので、委員が検討委員等で参加していくというような形でやったほうがいいのではないかと思います。

最後に、これはすごく難しいですが、やはりゴールが大事だと思います。「この手のワークショップをやって何になるの」ということは、どこでもさんざん言われることですが、ワークショップで議論したことがどこに伝わっていくのかということを確認していく必要があります。当たり前ですけど、ここで議論したことが本当の計画になりますとは、おそらく口が裂けても言えないと思います。ただ、参考にしませんとも口が裂けても言えませんので、そのゴールを少しでも前に進める形で、かつ、計画のときに少しお話しさせていただきましたけど、多分、冊子の最後には載ると思うんですね、こうなりましたという。しかし、それが示されるの、はかなり先の時期ですよ。そのタイムスパンをもう少し短く、自分たちが議論したことを忘れないうちに、何があったんだということを見せられるような仕組みが作れるといいと思います。そして、おそらくそれがわかると、じゃ、今後、会議とか計画とかがどうなっていくのかということに対する興味、関心を持ってもらうツールにもなる。

正直なところ、参加したら、その場で発言したことを反映してほしいのですが、それは無理だとしたときに、少しでも早いフィードバックというのは、私はかなり大事なのかなと感じています。そのためにウェブを使うとか、いろんな方法があると思いますし、ここまでしっかりやっている自治体はまだあんまりないと思いますので、ワークショップの新しい活用として、そういったことを考えてもいいのかなという点が挙げられます。

少し長くなりましたが、以上が、書かせていただいた幾つかのポイントになります。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。たくさん論点が入っているので、改めて後半で、これからどうしていくかというところで議論していきたいと思いますが、私は、極めて簡素な感想といいますか、コメントを載せているんですが、全体としては、傍聴で参加して、おもしろかったといいますか、よい会だったと思います。

それで、資料も、映し出されるだけではなく、ちゃんと配付されていて、客観的な数値データもあり、よかったです。あえて言うと、京都とか、他県よりも、武蔵野とか三鷹とか、よく似た自治体の例があると、職員としてはやりにくいかもしれないのですが、市民としてはおもしろいかなと思いました。

それから、やはり具体的なテーマで議論するという事は大事だなと思いました。抽象的に、まちをどうするかとか、コンセプトみたいなものだと、なかなか入っていけないところがありますが、やはり施設というのは具体的に目に見えて、それぞれ参加した人が使っているということなので、ワークショップをやるときは、具体的なテーマがいいなということも再確認しました。

参加者は24名ですか。

◎渡邊副委員長 多分、24名ですね。

◎西尾委員長 ワークショップのあの会場で、いろいろと動きますし、ファシリテーターもいるし傍聴もいるので、いいサイズだったと思います。100ぐらいになると、コントロールも大変ですし、職員もかなり動員しないといけないかなということを思います。もちろん市民全体の数から言うと、本当にごく一部ですが、こういうものを、できるだけ予算をかけない形で、地区ごとにやる、定着させることが大事かなと思いました。

業者の方がそういう配慮をしたのか、事前の打合せがあったかわかりませんが、やはり少々きわどくても、市民共通の課題というものも、皆さん、意見があるところなので、あってもよかつたかなというのも私は思いました。

担当の職員は何人いらっしゃいましたか。

◎事務局 担当職員は3名です。

◎西尾委員長 3名ですか。やはり職員も見て、なるほどこういうものかと経験することは大事で、それ以外の企画政策課の職員は何人いらしたんですか。

◎事務局 傍聴3名で、あと、企画財政部長のほうで全体を見ていたところがあります。合計で7名です。

◎西尾委員長 これは、誰が中心になってやるのかというのは議論になるわけですけど、やはり少々きこちないようでも、職員がやることに意味があるだろうと思います。何か質問されたときにも、答え方、中身が全然違うと思います。市の職員をやっているというので、自分にとって全くの常識のようなことを答えるのに対して、業者はやはり難しいので、そういう場面もあつたかなと思います。

若者を中心にしながら、それ以外の世代の人もいる状態でやっていくのは決して悪くないかなと思います。

天野委員、どうでしょうか。

◎天野委員 私は事務局という立場でもありましたが、参加していただいた委員の皆様には感謝申し上げます。冒頭の挨拶でも申し上げましたが、なかなか難しい課題でもあるので、あまり集まらないかなと思いましたが、やはり小金井市民の方というのは非常に意識が高い方が多く、当日集まっていたことに感謝を申し上げたところでもあります。

中谷委員もおっしゃっていましたが、やはり参加された方の意識は非常に高く、老朽化した公共施設の問題については、大体知っている方が集まっていたと思います。感想に書いていただいたのを見ても、自分のこととして考えた、自分の案と思ってもらうということが大事であると書いてあり、我々の思いを酌んでくれたような意見も書いてあります。

反省点とすれば、やはり周知、若者だとか大学生とかそういったところにグループで参加してもらったらどうかなんていう意見も書いてありましたが、より多くの方に参加していただくための周知は大事であることを感じます。

それから、あのチラシを見ただけで、ワークショップを実施することが読み取れなかったという意見が幾つか書いてあり、私もその辺は少し思っていたところでありました。ゲーム感覚

で楽しいことをやるということを全面的にもう少しアピールすればよかったかなと思いました。

それから、内容が盛りだくさんだったため、時間が不足してしまい、誘導していた感が出てしまったのかなと思います。やはり今後の課題として総括するならば、職員力、ファシリテーター、そういった力を養成していくことが小金井市にとって大事になってくるのかなと思ってございます。

市民参加の手法として、ワークショップは私も初めて見ましたが、こういったところでそれが使えるのか、有効なのか、そういったものを今後検討して、有効に市民の方々のご意見を吸収していく手法として高めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。意見を寄せてくださった、Dはどなたですか。

◎大久保委員 はい。

◎西尾委員長 じゃ、どうぞ。

◎大久保委員 Dの大久保です。参加できなかったのですが、僕もいつも思うことなんですけれども、大体班分けのときって、いろんな属性をまぜて平均的になるようにということになるんですけれども、そういった中だと、大体年配の方の声が強くて、若い人ってすごく意見が言いつらい状況になってしまうので、例えば、男女別、さらに年齢別で分けて、同年代、同じ性別の方が集まると、またそこで意見の出方が違うんじゃないかと思うので、6つの班に分けられたんですよ。大体同じような答えが出てきたもので、やはり大体平均的な意見ばかりになったのも、班分けの内訳がそういう属性だったのかなと思います。例えば、それが若い人なら、じゃ、子育て施設に関するところが前面に出てきたりしていたと思うので、そのあたりの分け方は少し工夫が必要かなと思います。

あと、もう一つ、若者の参加というところで、ある意味、こういう公募というのも一つ手だとは思いますが、例えば、学校に協力を要請したりして、これを高校生を対象に時間をもらってやってみると、また、すごくおもしろい意見が出るのではないかと考えています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。最後の話は、新しいことをやってもらうのは大変だと思いますが、出前で説明に行きますよと言って、ワークショップもついでにやりますかというようなものもあり得るでしょうね。市の職員が学校に行って、そういう機会ってないですか。

◎中村委員 ありますよ。今、選挙が18歳になったというようなこともあって、学校に模擬選挙みたいなことをやるような出前をやっているというのは聞きました。

私は市の職員じゃないですけども、生涯学習部で学び合い出前講座というのをやっています。それは、市政のテーマ、あるいは市政の周辺のテーマについて、市の職員あるいは警察等々、市政に関連するところの方が、10名以上集まったグループに対して出前講座を行うというのを無料で市はやっています。私は、まだ1回も出たことがないですけど、非常に興味のある分野をカバーされているので、一度募って、やってみたいとは思っています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。もう一方、出してくれた委員の……。

◎佐久間委員 私だと思えます。私、出さなくてもいいのかと思っていたら、結構ご連絡をいただいて、慌てて出ささせていただいたので。やっぱり行ってないので、内容とかが、見てもよくわからなくて、資料とかはよくまとまっているなど思ったんですけども、今のあれで一番感じるのは、やはりグループ分けというのが結構ポイントになるんじゃないかなと思えました。地域で分けていますけれども、例えば、それを建物とか目的別みたいなことで分けるとか、その分け方によって、出てくる意見とかが違って来るんじゃないかなと思って。だから、こういうことには、割とグループ分けというのは大きな意味を持つと思えました。

あと、もともといらっしゃっている方で、やはり市政に対して、割とマイナス面のイメージがある方が結構いらっしゃるような感じはあったので、それをどう払拭していくとか、そういうこととも思いました。でも、実際出ていないので、あまりわからないので申し訳ない。

◎西尾委員長 写真とかで、何となくイメージは持たれましたか。

◎佐久間委員 やっぱりファシリテーターのこととか、全く雰囲気からなくて。

◎西尾委員長 そうですね。動画が公開できなかったというので、動画があると多少違うだろうと思いますけどね。ありがとうございました。

Fは中村委員ですね。

◎中村委員 はい。私も出張で東京におりませんでしたので、失礼いたしました。先ほど、渡邊委員からお話がありましたけれども、結局、ワークショップの進め方についてということで、アジア航測というコンサルを使っておられるんですけども、結局、そのコンサルをいかに市の事務局として統御をするか、あるいはまた、コンサルに丸投げになっていないか、そこが一番ポイントじゃないかなと思えました。それが一つ。

あと、このワークショップそのものがどういう経緯で行われたかというところと、あと、このワークショップをきっかけに、今後どういう展開をしていくか。そのあたりも、ちょっとお答えしづらいところもあるかもしれませんが、その辺をちょっとお聞きしたいな。これ1回で終わるのか、あるいはまた、同種のワークショップを継続して、またおやりになるのか、今後の展開も含めて、そのあたりを教えていただければ。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。当日の資料の中に、市民意見交換会の目的というのがありまして、市民も大体施設の問題について、こんな関心とか問題とかを感じているところから、ある程度わかったところでワークショップを行って、その他、パブリックコメント、それから市民説明会は今後実施予定とここには書いてありますね。市民意見交換会はあれで終わりでしょうか。

◎事務局 先ほど委員長から、事務局として参加感想をいただいたところですけども、今回私どもとしても、反省点というか、もう少しテーマを絞ったほうがワークショップにはなじむのかなという思いは持っております。今回、総論をくみ上げていただく作業というものを短時間で実践していただいたところですけども、もう少し市民アンケートの傾向などを絞り込んだ形で課題提起したり、そこまで行った上でワークショップを開けるかなと思っていたところ

がりましたが、そこまで至らなかった中で開催させていただいたところもあり、課題提供の仕方が少し散漫になってしまったかなというところはあります。

やはりワークショップの中身になりますと、公共施設の件に関して言うと、例えば、何かの施設を複合していくとか、もっと細部に、各論に入っていった形でテーマを投げたほうが、最終的な成果物の仕上がりなんかも、参加いただいた方にイメージしていただきやすいところがあるので、もう少し絞り込んだ上でやらせていただいたほうがいいのかという思いも持っております。

この総論を組み上げていく中で、担当課でも考えましたが、例えば、連続性を持って、二月とか三月にわたって5回、6回とやらせていただくパターンというのも一つあるのかなと思ってはいましたが、それはそれで、連続して出席していただく必要があるので、広く参加を募ったときにハードルが大分上がっていくというジレンマがあるため、今回、単発で行わせていただいたというところがあります。

今後についてですが、今、お話ししたような、もう少し各論に踏み込んだ内容でやれたらいいのかというところはあります。総合管理計画自体が総論を組み上げていく計画という位置づけですので、また同じことをやったほうがいいのかどうかというのはすごく悩んでいるところです。

ただ、ここでスケジュールとして市議会等にもお示ししている市民説明会のパブリックコメントというところの間に、もう一回、何か仕掛けができればいいなというところは考えていますので、もう少し考え方を求めたいところです。

あと、受託者を使ってどうしてやったかというご意見をいただいておりますが、先ほど申し上げましたとおり、事務局は今現在3名でやっています。今回、ワークショップの規模として30名程度を予定させていただいて、10名1グループでやるというのも一つでしたが、いろいろご意見をいただいた中で、ある程度適切な規模だったのではないかとご見解もいただいたところで、やはり5、6名の1グループ設定がよかったのかなと思っています。やはりそういったところで議論を平準化していく、一定の方向性をしっかり持ってファシリテート、司会進行していただく点からすると、今回、受託者のほうで、ある程度人数をご用意いただいて、やらせていただいたのも成果としてよかったのかなという思いは持っています。

あとは、天野委員からもお話がありましたように、ファシリテーション能力というものをしっかり市の職員として向上していく中では、議会でもご答弁しましたけれども、トライ&エラーという形で、試行錯誤を繰り返していくという意味で、市の職員が直接携わるというのも一つだとは思いますが、これは今後の検討課題とさせていただければと思っています。

あと、渡邊副委員長からもお話がありましたように、資料体裁等々を整えていただいて、ワークショップの相対的な枠組みを構築していただく中では、受託者の力はやはり大きかったなという思いを持っています。受託者で取り組んでいただくもの、市職員側で取り組ませていただくものというのも、今回ある程度、反省点を含めて見えてきているところがありますので、

今後に生かしていけたらという思いは持っています。

◎西尾委員長 ありがとうございます。資料に関係するところが終わったところで、5分ほど休憩をとって、後半に入っていきたいと思います。後半では、ワークショップを若者中心でやるとすると、どういう論点があるかということを中心に、具体的なことも一般的なことも含めて議論していきたいと思います。

(休 憩)

◎西尾委員長 それでは再開したいと思います。

◎事務局 すみません。先ほど渡邊副委員長からお話があった、あまり間隔をあけずに情報を出したほうがいいというご意見をいただいたのですが、今、報告書のまとめを進めており、8月中には市のホームページ等で公開できるかなという段取りまで進めています。

◎原委員 さっき、チラシの書き方がちょっとまずかったんじゃないかななんて、市の職員から反省がありましたけれども、役所のチラシ悪くないですよ。出し方が悪かっただけで、議論自体は悪くないですよ。

今後、市民アンケート、意見交換会、パブリックコメント、市民説明会と、スケジュールが決まっているじゃないですか。こういうの、スケジュールが決まっていて、それを受けて何かするかみたいなことなんでしょうかというのが1つと、このアンケートでもそうです。ミニ講座なんかで出ている講座の話が、結論として終点はここじゃないかななんて、こういうことじゃないかなって。だから、結局こういうことだろうと思うんですね。

それと、このアンケートなんかでも、やっぱり小学校図書館等、いろんなことに、やっぱり身近で行きやすい場所というのはどこにでもあるから、学校とか本当の身近な場所を拡大してほしいということが、私たちの仲間で話にありました。

◎西尾委員長 感想など、今までの見てきた感想、それを聞いてのコメントなど、どうですかね。三輪委員など、どんなことを考えられたか。

◎三輪委員 私は参加できなくて、全体の流れがちゃんとわかってないのですが、やっぱり1つ目として、皆さんがおっしゃっていたように、このワークショップを行ったことが、どう検討委員会に反映されていくのかということのアナウンスが何かあったのかということと、絶対あったほうがいいと思うんですけど、この検討委員会がどういった方で構成されているのか、あまりわかってないんですけど、市の方とかにも話を聞いて回るということも含めて、私、小金井のまちづくりカフェに参加したときの感想なんですけど、話し合いの後に、井戸端会議とまではいかないんですけど、廊下で、本当に初めて会った、年齢も全然違う方としゃべったりもしたんですけど、終わった後に、その会の感想であったり、もっとこうしたいほうがいいのになというつぶやきであったり、何か出てくることは多いと思うので、この後がどうだったのかわからないんですけど、すぐに片づけたりはしないで、できれば、ちょっと居残れるような感じにしてもらって、そこに人が集まって話しているようだったら、ちょこっと市の方も、何をやっているんだろうと入っていってもらえるようなことがあれば、そのつぶやきが市の方

にも一応届いているなということも実感として持てればいいのではないかなという感想を持ちました。

◎西尾委員長 そうですね。どうもありがとうございます。経験から、そう思われたんですね。公式の会議ではなく、ロビーで実質的な議論がされるということがありますね。この会議の休憩時間とか、いろいろな意見交換の実質的な問題かもしれないですね。

五島委員、いかがですか。

◎五島委員 僕も参加をしなかったんですが、皆さんのを見て、大体わかった気がします。僕も、こういう作業を受託する側の、どちらかという、そういう人間なので、今皆さんが言われていた、どれぐらい結果を急ぐのかとか、1回で終わりなのか、3回でどれぐらいいくのかとかというのをしょっちゅう考えています。だから、その難しさみたいなことも結構わかっているつもりなんですけど、今、三輪委員が言われたことと同じなんですけど、終わった後の会場の雰囲気はどうだったのかなというのは、やはり伺いたいと思います。すぐ片づけないとかいうようなことは、僕がこれからやる時は、人がそこに、終わってからも残っている状態だとすると、それはいいワークショップというか、会議だったと思うので、すぐ、みんな、ぱーっと帰っちゃうのは、つまらなかったからさーっと帰っちゃう。そういうようなことを意識した企画運営をと思います。それと、もちろん若者の参加を促す方法も、ずっとそうですけれども、配慮していただければいいんじゃないかなと思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。今、主催されているんですか。

◎五島委員 はい。

◎西尾委員長 山下委員、いかがですか。

◎山下委員 私も参加できなかったタイプですが、まず、こういうワークショップを開催して、来ていただいたという最初のきっかけが一番大事だと思うんですね。私、団体卒の青年会議所から出向させていただいているんですが、よく言われるのが、青年会議所とかでも事業を行う際に情報発信が下手くそだと。うまく狙ったターゲットの人たちに情報を行き届かせることが難しいというのがいつもの課題なんですね。このワークショップで思ったのは、結構市内全域からバランスよく参加されていて、年代も、若者の市民参加という部分では、20代、30代がいささか少ないんですが、そうやって来た方たちの、今度、引き続き、芋づるで引っ張ってくるみたいな方法とか、あと、なかなか予算の関係で難しいと思うんですが、今度はこういうワークショップ、どういうのをやったら興味がありますかみたいなアンケートをとると、市民の方々が、またそういったところに出てきやすくなるのかなと。ですから、今回は公共施設、このテーマでやったんですが、次回は何かほかのテーマでやったら、何が希望ですかみたいなアンケートをとって行って、1回来てもらったところから、またさらに幅を広げていく作業も必要なのではないかなと、皆様のお話を聞いて思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。この前のとき、最後に市長がご挨拶で感想を述べられて、みんな、それなりに楽しいときというか、充実したときを持ったと思いますが、同

時に、これ、一体どうなんだということも思いますよね。市長は、公共施設は市民のもので、引き続きワークショップ、意見交換会、対話をやりたいと言っておられたんです。でも、私、決定的に大事だと思ったのは、市長が出てくるということです。市長も部長さんも、そのテーマについてはご存じだろうと思いますが、やはり市長が出てきて、引き続き、これをやります、対話も続けましょうと言って、それはすごく据わりがよかったと思います。少し抽象的な言い方かもしれませんが、市民の力を市政に生かすということでまとめられたように思いました。

これは、やり始めると多分エンドレスで、三鷹で親水公園を造るのに、何十回とやったと思います。それで、地域が特定されてしまいますが、同じような人がやっていて、みんな、だんだん疲れてきて。アイデアばかりではなく、具体化していましたが、やはりあるところまでいくと、もう行政に投げて造ってもらおうということをやったと聞きました。しかし、やはり自分たちのものだと感じるためには、かなりの回数が要るのではないかという気がします。それがプロポーザルであれ、具体的なものであれ、こういうワークショップは続いていくということを私は確認でき、それが非常に有意義だったなと思っています。

今日の会議の結果ですが、この次は11月ですか。そこでは行政から、事務局案的な、ワークショップのモデルのようなものを出していただくことにするため、我々がここで自由にアイデアを出してみてもどうかと思います。今までの議論の中に、いろんな論点も含まれていますが、改めて、私も論点整理をきちんとやっていませんが、例えば、こういう工程表のようなものがありますけれども、アンケートをやって意見交換会をやって、策定委員会ですかね、作業委員会のやりとりの中でプランを作っていくようなものですが、若者、ワークショップというときに、そのような形以外のこともあるだろうと思います。

まずは目的が、交流という目的で市の問題について知り、それから、いろんな市民と触れ、職員とも触れ、その中で具体的なプランというか、テーマは、もう少ししてから、それを絞っていくという考え方もあるのではないかなと思います。ということで、事務局に準備をしてもらうためのプロポーザルを個別に出していただければどうかと思います。どなたからでも。今まで話されたことの繰り返しでも結構ですが、枠組みや具体的な手法を列挙していきたいと思いますがいかがでしょうか。

いつ、何回ぐらいやってみるとか、1回だけ施行するというのもありますが、3回ぐらいやってみるとかというのもあると思いますし、何よりも重要なのはテーマですけれども、テーマも、少なくとも候補を幾つか挙げておく必要があるだろうと思います。

事務局のほうでマニュアルという言い方をされているので、それがどういうものをイメージされているのかご説明いただければと思います。

◎事務局 ここまでご議論ありがとうございました。前半でご説明申し上げましたとおり、事務局といたしましては、若者の市民参加を推進するためにどういう形がよろしいのかということで、その一形態、ワークショップというのはいかがだろうというご提案だと受けとめておりまして、たまたま公共施設の関係でワークショップをやってみるので、皆さんに参考で見たい

ただきたいという趣旨で、ご参加いただいたというのが前回の流れでございました。

例えば、資料4をご覧くださいますと、先ほど山下委員からもご指摘がございましたとおり、20代、30代の方が約4分の1、40代以上の方々が約4分の3という形になってございます。こちらについては、若い世代を取り込もうということで、今回私どもで、高校、大学にも足を運ばせていただき、実際にこういうポスターを張ってくれというところまでやってはみましたが、やはり、それでも足りないという状況でございました。ですので、山下委員がおっしゃったとおり、情報発信がまだまだ下手なのかなという部分は否めないところでございます。

そこで、次回以降ですが、ワークショップについて、今後市としてこれをスタンダードモデルとするために、どのような形がよいかというところで、今回ご議論いただいた内容をフリップアップし、作ってみたいと思っております。ワークショップそのものについては、小金井市としては始まったばかりの状況でございますので、いきなりマニュアル的なものをお出しできるかどうか、自信はありませんが、今まで皆様からご議論いただいた点を踏まえ、若者を取り込んでいくために、どのような形でワークショップを進めていくのがよいか、小金井市がやるんだったらこんな形のワークショップを目指そうじゃないかというようなところの素案のようなものをお示しできたらいいなと考えているところでございます。

◎西尾委員長 ということ、わりと自由に提案していいのではないかなと思っておりますけれども。

◎原委員 大体こういうことは、やっぱり学校に出前に行かなきゃしょうがないと思うんですね、若い人に、こういうミニ講座。西岡市長が覚せい剤防止協会の事務局をやっている、各学校に、小学校、高校、大学とかにも、麻薬は怖いとか何とかいう、そういう出前講座に行っているんです。そういうつてもあると思うから、さっきおっしゃった、市長が市民の声を聞いた何かと言っていたと言うから、じゃ、市長に宣伝してもらって、そういうミニ講座に行っていたものを、今度はこういう小金井をどうしていったらいいかみたいな講座をさせてくださいと言ってもらったらどうですか。で、小金井も、やっぱりみんなで、みんなでというか、何人かでそういう、覚せい剤防止、覚せい剤は怖いという話を子どもたちにしてあげていたんですよ。だから、市長がこれを若い世代に、声を聞きたいと言って、結局若い世代が来ないというから、来ないなら、行って言ってくるというのはどうですか。

◎西尾委員長 じゃ、順序はどこでどんなふうにするかはともかくとして、出前講座のようなもの、市政のあるテーマについて学校で話をする。高校ですかね。

◎原委員 そうすると、やっぱり学校も小金井も同じ地域だから、そういうところにこのパンフレットを持っていけばいいと思った。業者を使ったのは問題だけど、こういうのはやっぱり業者だから作ってくれたと思って、渡邊さんがおっしゃったように、やっぱり利用してというか、だめと言うよりも、利用し合うみたいな。これだったらよくわかるから。

◎西尾委員長 お土産を持って学校に行く。ICU高校なら、私、アレンジしますかね、小金井の中にある高校ですけれども。ちょうど選挙権を持って、いいと思います。

◎五島委員 まず、マニュアルを作ってもいいと思うんですけど、作り込み過ぎない。作り方

の段取りは書いてあるけど、中身のことをどうこうというのは、それは作らないほうがいいんじゃないかなと思うのが1つと、今、ちょっと思ったんですけど、企画チームを公募するとか、何をテーマにするのかということを決める機会を募集する。それは、例えば大学生、学生になりますけれども、そこは20代限定にするとか。場合によってはですけども、優勝争いを行うとか。コンサルを今回使ったと思いますけど、それをやることでモチベーションが少しでも上がるんじゃないかなと思いますし、それはちょっとおもしろい。それで、その人たちに作ってもらったプログラムで、ワークショップなり会議を運営する。そのサポートを役所が行ったら、それはおもしろいんじゃないかなというのは思いました。

あと、広報ですけど、SNSも、ここまでは広がりますけど、友達までは広がるけど、その向こう側には行かないので、そこを意識した、向こう側を意識した広報の仕方を考えなきゃいけないんじゃないかなと。そのためには、魅力的なネタを作らなきゃいけないし、そこに力を使わなきゃいけないし、そういう言葉にひっかかるような人をつかまなきゃいけないし、口コミはやっぱ強いと、最近、本当に思うので。

◎西尾委員長 ポスターはだめですよ。ポスター1,000枚は、ほとんど意味ないんじゃないか。

◎五島委員 それよりも、例えば、若いお母さんのグループのLINEだったら、そこはぱっと広がるんです。それって多分、学生とかも同じだと思うんですけど、それは顔見知りじゃないと、その情報が信用できなかつたりとかするので、そういうことも含めて意識して情報を出していかなきゃ伝わらないと思っています。

◎西尾委員長 テーマをどう決めるかって非常に大きいです。こっちで何か決めるよりも、その段階から参加によって決めるというようなことができれば非常にいいわけですよ。そうすると、その人たちをどう集めるかみたいな議論になってきますね。重要な論点ですよ、広報。

◎佐久間委員 参加する側に立つと、そのワークショップでやったことが、どれぐらいのものが反映されるかということが全くないと興味が薄れると思うのと、あと、もう一つ、若者を集めるためというのは、これは市でできるかどうかわからないんですけど、駅前デビラを配るのが一番早いと思うんです。例えば、今、農工大学とか、いつも配っていますけど、若い人にそれを渡すということは一番基本、早いことかなと思います。それができるかどうかは別として。

◎西尾委員長 どこまで反映するかで言うと、行政が主催する限り、すごく重要なことですね。呼んで、考えて、いろいろな意見を出して、その手応えがないのは非常に問題だろうと思いますね。それで言うと、三鷹でやっているのは、協働センターというのは市民協働なので、市民が中心で、市民というのは若者が勝手に集まって、いろんなことをやっていて、そこに職員が呼ばれるんですね、テーマによって、商店街とか防災であるとか。だから、責任が行政にあまりなくて、若者は勉強会とか交流会というので満足して行っているところがあります。だから、そういうタイプのものもありますけれども、行政がやるときに、それだけではちょっと不十分かなということもあって、それが一番私も難しい点だなと思います。でも、反映の仕方って

ろんなことがあると思いますので、ワークショップを充実させていくとか、ちょっと目標を遠くに設定すれば可能なことがあるのではないかと思います。

そのほか、どうですか。

◎渡邊副委員長 先ほど五島委員が言われたことですが、参加したくなる仕組みを作るとするのはとても大事だと思います。それは、お金をあげるということもそうですし、それこそ、今だったら、ポケモンGOでレアモンスターが出るとか言ったら、もう放っておいても来ます。おそらく、今すぐの仕組みでは難しいとはいえ。わかりやすく言うと、そのことに非常に興味がある人間以外を呼ぶためには何らかの「えさ」が必要だということです。これは当たり前だと思うので。我々だって関心がないことには参加しませんから。時間は有限ですし、コストも有限な中で、わざわざ関心がないことに参加するというのは、それはむしろ非合理しかない人間の行為です。やっぱりそこには、何らかの関心を持ってもらう。

大事なことは、では、10万円あげて参加してもらえばいいかとなると、それ、全然違うんですね。むしろ、そこまで高くなくても、参加してもらった後に、だけど、その中で、むしろ関心をより深めてもらって、そうしたら、今後は、思わず参加したくなるような人々をいかに作っていくのかのほう的大事なんです。なので、1歩目とか2歩目というのは、確かにちょっとコストがかかっても、関心を持ってもらうために何かするというのは私は結構重要だと思っていて、それはもう本当にお金とかでもいいですし、せつかく、こきんちゃんがいるので、そのグッズとかを作ってもいいですし、ありますよね。例えば、緑の環境ボランティアをしたら、その帰りに、スーパーとかで買える袋をもらえるととか、そういったものにむしろ近いものかなと思っています。むしろそれで、やった人々をいかに次につなげるのか。そうすると、実はワークショップ自体が単体というよりは、ワークショップを通じて、次の市民参加につなげていくための方策をセットで一緒に考えていくことが大事なのかなということが、まず1点目かと思います。

ただ、もう一つは、かといって、市民参加がどのようなものでもやりやすいかという、必ずしもそうじゃないという現実問題もあります。やはりものすごく専門性の高いようなテーマで市民参加をやりましようと言っても、それは、正直、あまり意味がないです。逆に今回は、もしかしたら、やらないんですかね。今回は公共施設等に関する総合計画で、その次に、もしかしたらということであって男女共同参画、そういったテーマは比較的やりやすいですね。比較的誰もが関心を持ちやすい。あるいは、保育とかもそうかもしれません。

それに対して、例えば介護保険計画にかかわる何かとなると、これはまず介護保険計画が何かわからなきゃいけませんし、今の医療とか、その他全部がわかって、かつ云々かんぬんでとなると、これは結構厳しくて、専門家同士が、ワークショップをやっていた方がいいかもしれないテーマです。おそらく、市民参加で、かつ広く、場合によっては、さらに若者に重点的に配った上で、それに適するようなワークショップのテーマが何なのかということは、かなり戦略的に考えていったほうがいい。

公共施設は、若者の議論に比較的合う。なぜかという、あと20年間ぐらいで、もしかしたら先立たれる方々よりは、あと50年いる方々にむしろ関心を持ってほしいテーマなわけですし、若者には非常に関連ありますし、かつ、今後おそらく、これを作っても、次に多分、個別計画を作らなきゃいけないので、そういうのはものすごく若者が参加しやすくなっていく。そのように考えると、ワークショップの、興味がない人というよりは、少し興味があるけど1歩目がない人に1歩目を踏み出すためのインセンティブを設計し、かつ、そこに、じゃ、次にもありますよ。例えば、これをやっても、おそらく全体ができて、次の具体的なところは、もう多分、これこそけんけんがくがくの議論が起きやすいところで、そこにこそ、次にまたぜひ力を注ぐ。あるいは、来ていただいた方々は、また、すぐぜひ案内を送るみたいな、そういうことをやっていくと、小金井市のいろんな政策がある中において、市民参加のワークショップという方式が使いやすいものが出てくるのかなと。

あと、もう一つは、この年齢属性を拝見すると、私なんかの目から見ると、ああ、若い人、結構来ていると思うんですね。すなわち、若い人に重点的に配ったことは効果が出ている、最低限ですけど。決してものすごく多くはないのだけど、それでも、多分、普通に配ったら、おそらくこんなものじゃない現実が待っている中では、出ているので、そうすると、こういった、若者に少し多目に配分するというのは、平等性の原則から反するものの、若者にもぜひ、今後、積極的に参加してほしいという大きい方針がとれるのであれば、有効な活用かもしれない。もう少しぐらいやっても、さらにいいかもしれないという点は指摘できるのかなと。そうすると、特にテーマによっては、全部の年齢をちゃんと人口比例でやるのではなく、若者とか、場合によったら女性とか、そういったところに重点的に行うというのも、今後の、いろんなところでワークショップを開催してもらうことを考えていくと、ちょっと配慮してもいいことなのかなと思います。

最後に、学校に持っていきましようという話はものすごくよくわかるんですけど、一応、私も学校にいる者として、もうウェルカムで何でも受け入れますとはなかなか言いがたい部分があるんですね。おそらく持っていき方って、それぞれあると思います。例えば、学校に持っていくときに、教育カリキュラムに入れてくださいと言うつもりであるのか、任意参加のこういったプログラムをやらせてくださいでは、ハードルが全然変わってきます。おそらく学校の巻き込み方も、多分、地域とか学校ごとでかなり変わる。じゃ、私がゼミでやってくださいと言われたら、これは結構やりやすいんですね、正直言いますと。大学の講義は教員の裁量が非常に強いので。適する授業があれば、その授業の1コマ、これは簡単なんです。逆に、高校や中学の中で、いきなり1コマやらせてください、これは一気にハードルが上がってしまいます。そうじゃない高校とか、学校にもし持っていくのであれば、その学校ごとに適した方法があるので、そういった情報は各部局間である程度共有しておいたほうがやりやすいのかなと。

そこで、若い子に持っていくのであれば、そこで同じ部局が全部同じ苦勞をするのか、これはくだらないことですので、そういう持っていき方の情報共有みたいなものは、ぜひいろんな

部局間でやっていただいたほうが。そうすると、そういったことは、マニュアルなりワークシートなのかわかりませんが、そういったことに情報共有していただきつつ、ただ、やり方は書き過ぎると、ものすごくそこに縛られてしまう。特に初めてやる人って、絶対、ああ、じゃ、このKJ法でやらなきゃいけない、これでやらなきゃいけないと縛られてしまうので、それはむしろ、ちょっと緩やかに書いていったほうが、かえってやりやすくなるのかなというのが、私が、皆さんでやっていただくときの、職員の方を中心にやっていただくときの見通しを立てるような文章作りとしては役に立つのかなと思う点です。

◎西尾委員長 そうですね。これ、職員が見て、何かインセンティブが高まるような部分も必要ですね。いや、面倒なことを言ってこられたな、あの委員会はと思われなような。

◎佐久間委員 インセンティブということですけど、ポイントみたいにあれして、5ポイントたまったら、こきんちゃんをもらえとか、何か、そういうものがないかなと思います。

◎西尾委員長 こきんちゃんって、幾らぐらいするんですか。1,000円ですか。

◎渡邊副委員長 ただ、一見すると、ポイント制ってばからしく見えるんですが、私、まさにこれ専門で、今、高齢者のボランティアで、実はポイント制というのが、これは介護保険の中ではそういった制度が既にあるんですね。今、180ぐらいでしたか、自治体が導入して、そこらじゅうの自治体でやっていたりします。あるいは、横浜なんかで「ウォーキングポイント」といって、万歩計を無料で配って、その万歩計がポイントをたまるような形になって、そのポイントがたまると何かにかえられる。これは、高齢者だと、個人の健康とか、あるいは全体的な介護予防なんですが、そういう取組をぼこぼこ色々な自治体がやっているんですね。

5ポイントで、こきんちゃんかどうかはわからないんですが、ただ、これって一見くだらなそうに見えるんですけど、うまい制度設計をしたり、あるいはポイントをためて競争ができるとか、みんなでシェアできるとか、そういう仕組みを入れてあげると、ポイントってちょっと意味が変わってくるんですね。高齢者の場合、結構あるのは、グループ間で、俺ら何万歩、歩いたみたいな競争を始めちゃうみたいなことが、小さい自治体の実験なんかでは起きたりもする。むしろ歩き過ぎて、若干健康を害しそうだったりもするんですが。これって結構、本当にばかにできない力。一見くだらなそうに見えるんだけど、人々をある方向に歩ませていく力にもなり得るので、どうせだったら、歩む方向性を社会に役に立ちそうな方向性に少しシフトさせてあげるような形として、ポイントという形がいいのか、わかりやすいもののほうがいいのか、わからないんですけど、それは意識して設計していくと、本当に使えるものになるのかなと思っています。

◎三輪委員 インセンティブという話で、割と物とかお金であったりとか、そういったものの話が多かったのかなと思うんですけど、本来であれば、参加しているということ自体がもうインセンティブになるように思っていて、特に継続的に参加するようなものであれば、それ自体が、変な話ですけど、就活のネタになったりだとか、そういったインセンティブがあって、韓国だと、そういったことのためにボランティアをするみたいな話もあるんですけど、そういっ

たところとうまく、何かって具体的には言えないんですけど、結びつけられたら、もっと循環的に、持続できるような形でなっていくんじゃないかなと思います。

◎佐久間委員 互助サービスを受けられるみたいな。助けてもらえる、何ポイントとか。

◎西尾委員長 人脈ということかどうかわからないけど、新しい人といろいろ知り合えるって大きいですよ、知らない人と。

私、サービスラーニングというところの、今、責任者をやっているんですけども、それに対する興味というのものもあるんです。親と教師以外に、世の中どんな人たちがいて、どんな仕事をしているんだというようなものに触れるとかですね。

◎渡邊副委員長 もう1点だけ。今の話につながる。先ほど、ものすごく重要なこと、三輪委員と五島委員がおっしゃられた、終わった後の雰囲気なんですけど、このコメントの一番最後の、お菓子は要りますかとあります。あの雰囲気では、正直、要らなかったと思うんです。ただ、実はお菓子って、むしろ、その後に多分使える。つまり、やっている途中って結構しゃべれない。今回、さらに時間がものすごくタイトだったので、お菓子があって、本当はおそらく雰囲気をやわらかくするためのツールとして用意されたと思うんですが、あれってあんまりやっている途中って食べられないんです。でも、終わった後に、お菓子をポリポリ食べたり、本当はお酒を飲めると一番よいのですが、このようなことをしながらやっていると、実はその後の時間を盛り上げていくためのツールになります。ただ、終わるときにお菓子というのも変な話ですので、ちょっと多目に用意しておいて、ジュースとかもあって、終わった後に話すツールとしては、実はお菓子ってすごく役に立つツールだったりします。また、その分、ちゃんと空間を押さえておかなきゃいけません。

あるいは、我々もそうですよね。終わった後の飲み会がとか、今日とかも、飲み会がとか思うと、ちょっと頑張るとか、そういうのというのは、おそらくどんな組織でもきっとあると思うんです。そのような、ものごとを単体で考えるんじゃなく、全体としてのインセンティブ。かつ、それが正しい。そこで人間関係がいいと、三輪委員がおっしゃったように、じゃ、次も、みんなでこの議論をやってみようか。違うテーマも、またおもしろそうなのがあるから、もう一回参加しよう。そして、ここでやっていることがいい雰囲気だってわかってくると、そんなのがなくても参加するようになっていくという。なので、少しふんわりと、このテーマをどう詰めるかだけじゃないところを制度設計していくというのは、ワークショップですごく重要なのかなと思います。

◎西尾委員長 本当にいろいろなファクターがあるので、傍聴じゃないほうがコミットは深いかもかもしれません。何かやらないといけないとか、何か提案するとかという課題があると、頑張るかもかもしれません。本当にいろいろ議論は尽きないんですが、そのほか、あと5分程度になりましたが、何か、こういう論点がとかあれば、この際、出しておいていただければと思いますが、いかがでしょうかね。

◎一山委員 小金井市は、どれぐらい本音で若者の意見を聞きたいとか、私はよくわからない

ので。もし本気でやるんだったら、例えば、うちの大学ですと、「街づくり未来塾」をやっています、単位が絡むと、わんさか来ますよ。だから、その中にうまく…。小金井市はいろんな大学と連携協定もされていますので、そうすると、上手に入り込んでいければ、うちなんかは単位はすごいインセンティブが高い。問題で聞きたければ、そういう話もします。それとも、やはりある程度、傾向がつかめればいいということであれば、あまり深入りはやぶ蛇になるかなという。塩梅がわからないので、なかなか困っております。

◎事務局 ありがとうございます。先生の大学とも包括協定を結ばせていただきまして、担当課でございます。確かに、この間、いろんな形で市民参加を進めてきているような実態でございますけれども、やはり20代、30代の方々にご参加いただくのは非常にハードルが高いところもそのとおりでございます。ただ、ご提案というか、単位というところまではなかなか頭を、本気度というお話にはならないかと思いますが、ご高齢の方のご意見も大事ですし、若い方々のご意見も大事だという立ち位置から考えてございますので、もしかしたら先生にお力添えをいただくことがあるかもしれませんが、今現在、大学のカリキュラムの中の一つの単位というところまでは、私、個人的な意見になりますけれども、ちょっと考えにくいなというところは申し上げたいと思います。

◎担当課 総合管理計画を担当している立場で言うと、今回のワークショップ、五島委員からお話があったとおり、結構参加を希望されている方同士、SNSでつながって拡散していることは確認しています。比較的、立ち位置が近い方、ご関心が高い方が非常に多く集まっていたというのは、そういう効果があったのかなというところで、あと、会が終わった後も、今回の公共施設の総合管理計画の意見交換会を通じて、改めてメールアドレスの交換をされている方もいらっしゃいましたし、それだけ横の広がりというのも、職員が後片づけをしながらですけれども、風景として確認をさせていただいています。

あと、今回、公共施設ということで、市長からも、委員長のお話があったとおり、市民の皆さんに直接関連する施設の問題なのでというところもあって、市民アンケートも16歳から対象に発送させていただいて、比較的幅広い年代の方々の意見を求めたいという趣旨もありましたので、アンケートでも一定回答はいただけましたし、今回、ワークショップの中でも、比較的高齢に偏らない、幅広い年代の方にご参加いただいたので、参加者の傾向としては、我々としては成功に近いレベルだというふうに。幅広い年代の方の意見を聞きたいという趣旨からすれば、おおむね成功だったのかなという感覚は持っています。

ワークショップの形態として、逆にもう少し各論に入った、細部を詰めたテーマですとか、今後、私どもとしても、アクションプランや個別計画をどのように回していくかというのを考えていますけれども、そういった中では、ワークショップというのは、また一つ取り入れていくということで、有用なのかなという感覚は持っています。これ、軽々になかなか言えないんですけれども、予算の確保なんかもありますし、そういったところが、担当者としては考え方をまとめて、もう一度トライできる環境を整えていけるような取組はしたいなと思っていますと

ころです。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。何か、もう一言とかというのはありますか。

◎中村委員 中村です。小金井も、市内にいろんなリソースがあります。例えば、大学等の教育機関もありますし、それから、あと、無視できないのは公民館ですね。私、市民団体の代表ということで一応こちらに参加させていただいていますけれども、我々のNPO、市民の図書館・公民館こがねいで運営している、市から委託運営させていただいている施設の 하나가、きたまちセンター。それから、あと東町のセンター。その2か所なんですけど、特に、きたまちセンターのほうは、割と若者の市民参加というのをかなり、市の公民館の中でも積極的に推進させていただいてまして、そこで割と積極的な若者がどんどん自主講座を作るために集まってきたりしていますので、そういった核になる人間の首根っこを押さえておけば、人のつながりの輪というのがありますから、そういうところからいろいろ人脈をたどって、あなたも一緒に参加しようというような人の輪をうまくワークショップにつなげていくこともできるんじゃないかと思います。

あと、職員のほうでも、イトウさんという職員がいます、そのあたりの若者の市民参加ということをメインにやっている職員の方もいますので、そういう人に意見を聞くのも一つかなということで、公民館の活用ですね。それから、例えば、市の中の大学においては、学芸大がありますけれども、学芸大は割と地域との連携を前面に出して、小金井市とは当然タイアップもしていますから、協定を結んでいますから、特に学芸大とかあるいは農工大とかありますね。そういった市にあるリソースを積極的に利用していくことによって、若者の市民参加を促進することができると思います。

例えば、先ほどの話に戻りますけれども、NPOのきたまちセンターとのつながりということであれば、私はいくらでもお手伝いさせていただきます。そういう形で、うまく市のリソースを使ってやっていくことはいくらでもあるんじゃないかなと思っています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。大体こういう委員会を組織するときも、団体の代表とかみたいなことをやるように、やっぱり参加といっても、ゼロから広く公募してというよりも、コアになるようなグループなり人なりが要るんじゃないかと思うので、そういうところをターゲットにして、最初のワークショップの人を集めていくというのは一つの考え方だろうと思いますね。

8時半までの予定で、ちょっと過ぎてしまいましたけれども、よろしいでしょうか。次回は11月開催ということですか。

◎事務局 はい。

◎西尾委員長 それでは、お願いします。

◎事務局 次回の開催ですけれども、例年ですと、11月が開催月になっております。前回同様に、また、木曜、金曜ということで、時間を戻して、7時から開催という形で考えようかなと思っています。今想定している日にちのほうで、11月17、18、24、25、木、金、

木、金ですけれども、そちらの中で、今段階で都合の悪い日にちとか、もしありましたら。

(日程調整)

◎西尾委員長 それでは、11月25日、金曜日の夜7時からということですか。

次回は事務局案が出てくると思いますので、それに基づいて、いろいろ議論したいと思います。それまでに湧いてくるアイデアなどを、また伝えていただければ、それを反映することは考えたいと思います。

その他、何かありますか。

◎事務局 結構でございます。

◎西尾委員長 では、今日の会議は以上で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

(午後8時35分閉会)